

伊勢・三河湾貧酸素情報(H29-5号)

平成29年7月19日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

平成29年7月10日に伊勢湾、11日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

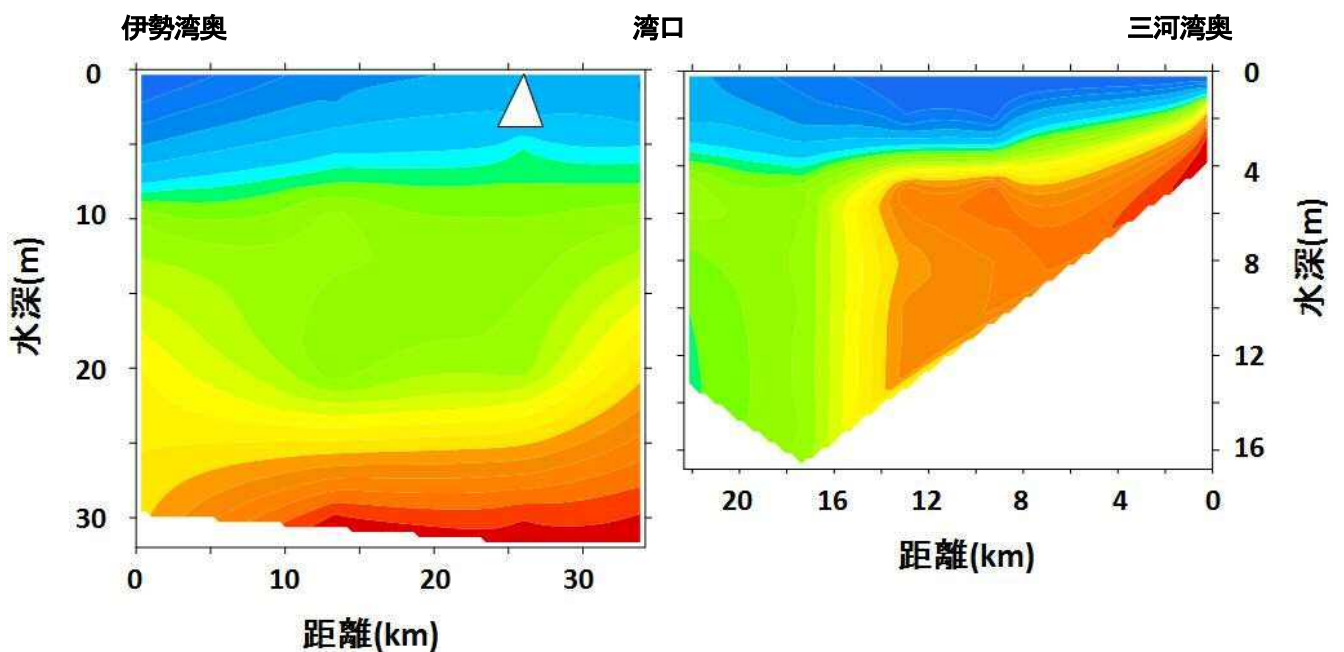
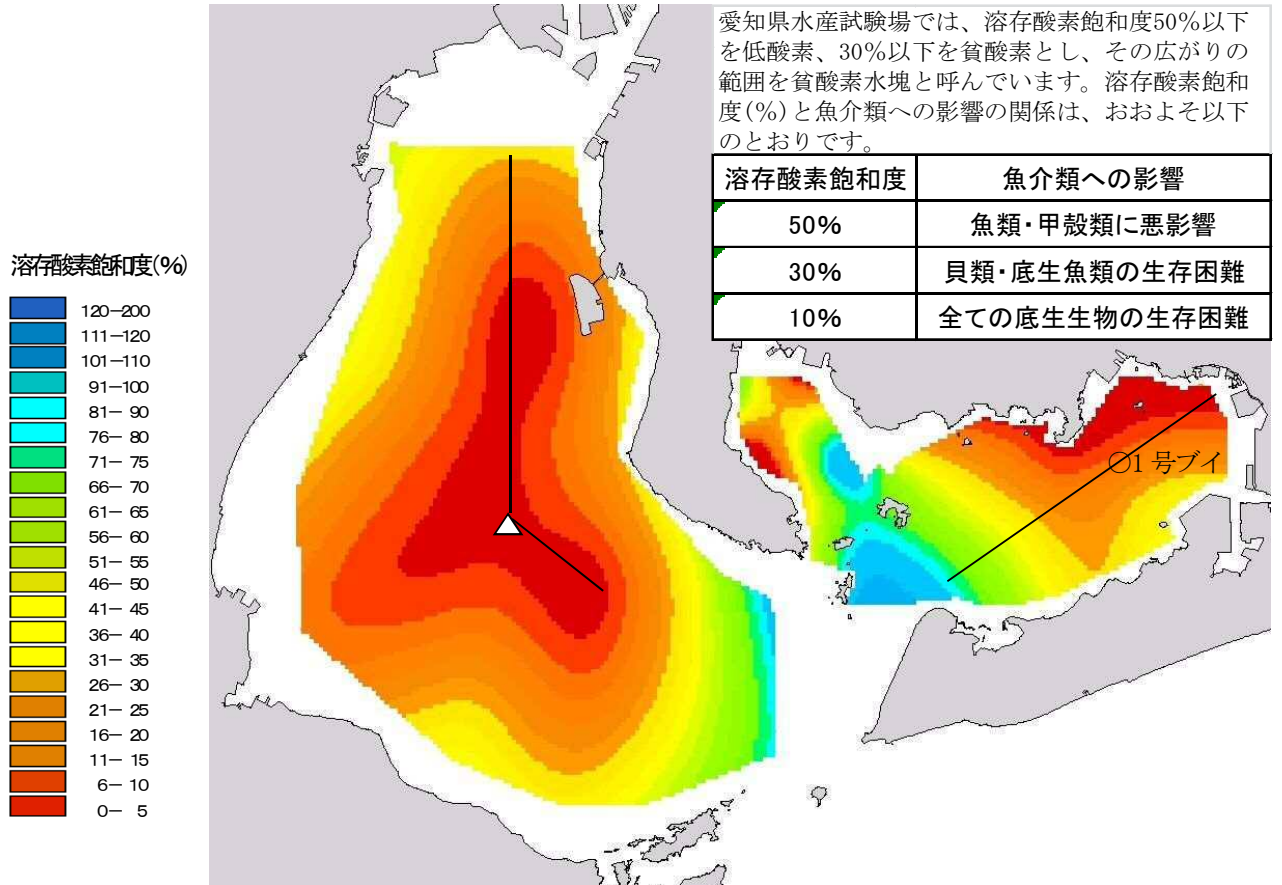


図1 伊勢湾(7月10日)・三河湾(7月11日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)(三重県「あさま」、愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

7月10日の調査結果を図1に示しました。前回調査(7月3~5日)に比べて、湾中央部では溶存酸素飽和度10%以下の海域が拡大していました(図1)。

今後は、表層の水温上昇にともなう成層の発達により、海水の上下混合が起きにくくなるため、貧酸素水塊はさらに拡大すると思われます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	22.3~27.1	22.8~32.5
底層	15.8~21.1	31.3~33.8

三河湾

7月11日の調査結果を図1に示しました。前回調査(7月4~5日)に比べて、溶存酸素飽和度30%以下の海域が拡大していました。貧酸素水塊の南西端では、外海水の底層への流入による貧酸素水塊の持ち上がりがみられました。また、知多湾奥部においても貧酸素水塊が確認されました(図1)。

自動観測1号ブイ(図1)のデータを見ると、7月3日から徐々に貧酸素水塊の層が厚くなっている様子が観測されています(図2)。

今後は、表層の水温上昇にともなう成層の発達により、海水の上下混合が起りにくくなるため、貧酸素水塊はさらに拡大すると思われます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.7~29.8	26.3~31.1
底層	19.8~24.3	30.5~33.2

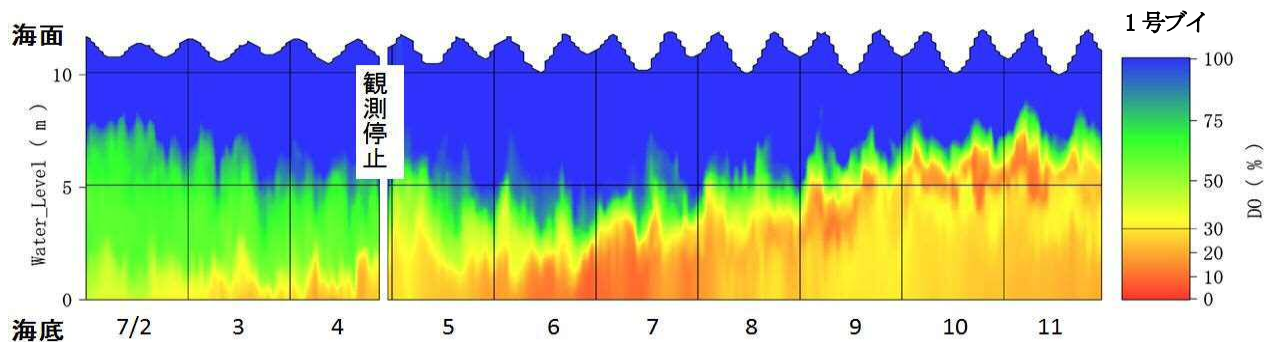


図2 溶存酸素飽和度(DO)の経時変化(自動観測1号ブイ)

参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況

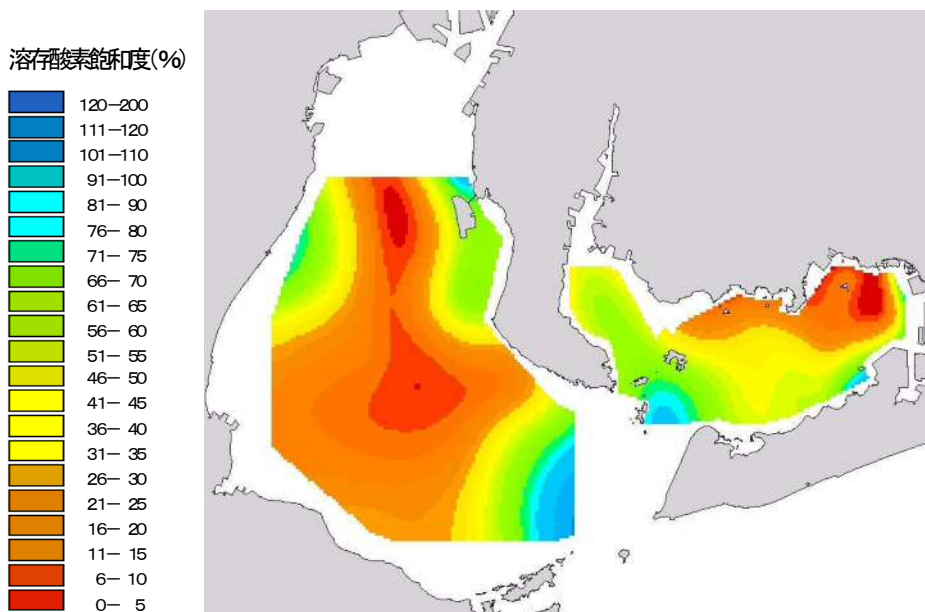


図3 平成29年7月3~5日(伊勢湾)、7月4~5日(三河湾)